



投票へ行こう！ 統一地方選挙横須賀市議選の投票日は4月21日(日)です。

【対談日 2019年1月19日(土) 関東学院大学において】

司会 お忙しい中お集まり頂きましてありがとうございます。本日は、人口減少社会に見合った行政の在り方について、意見交換を対談形式で行っていきたくと思います。本日、司会を担当させて頂きます小坂勲と申します。宜しくお願い致します。

初めに、葉山議員にお尋ねしたいと思います。三浦学苑の教員であった葉山議員がなぜ政治の世界に挑戦されたのですか？

「議員を目指した理由について」

葉山 卒業生が結婚を機会に横須賀から離れていきました。理由は子育て環境や教育環境が充実していないなどでした。平成5年を境に横須賀の人口は減少。このままでは、横須賀に未来がないと感じ早期退職して、統一地方選挙横須賀市議選に出馬をしました。

司会 当時、濱谷先生は、葉山議員の行動についてどのように感じておられましたか。

濱谷 当時は、お互い大学の教職OB会準備委員会で、教員養成塾の立ち上げを模索していました。その時の葉山さんの印象は、若者育成に対する情熱が人一倍あると感じました。

「市会議員として葉山なおしの旗印（教育行政の市町村連携広域化）」

そんな葉山さんが地方行政に身を置き、三浦半島広域行政を訴えていた記憶があります。

「みんなで考える三浦半島の会設立の目的」

司会 退職した2010年に「みんなで考える三浦半島の会」を設立していますが、立ち上げた目的をお聞かせください。

葉山 横須賀の魅力を最大限に発揮するためには、三浦半島全体の活性化が必要で広域的な行政の在り方を検討する事が必要であると感じたので設立しました。

司会 濱谷先生は、葉山議員の考えについて、当時どのように感じましたか。

濱谷 葉山議員の考えが、どこまで市民に伝わるかについては、未知数であると思いました。しかし、今では当たり前となっているので先見の明があると言う事でしょう。

司会 三浦半島教育行政の連携広域化について、横須賀市民の反応は如何でしたか。

葉山 1年間で約5000人の方々にお話をし、300人程度の方にご賛同を頂きました。

司会 その教育行政の連携広域化の具体的な内容とはどのようなものですか。

「財政負担の軽減を目指して」

葉山 今後、人口減少が進み税収が減少するので、各自治体がお金を出し合って、三浦半島全体で効率的な行政の管理運営を目指す事が望ましいと考えています。

濱谷 教育だけではなく、横須賀を核とした三浦半島全域の地域愛を持つ事が大切であると思います。

「独立性を保ちながらの共有と連携の必要性について」

司会 市町村合併ではなく連携を模索する目的についてお聞かせ下さい。

葉山 合併は、全ての行政内容を一本化する事になるので、独自性が失われる可能性があります。三浦半島の特異性を考えると合併ではなく、各自治体で独自性を保ちながら連携できる部門についてのみ広域化する事が特色を生かせると感じています。

濱谷 その通りだと思います。合併は、行政負担が多いので、三浦半島ではなじまないと思います。

「人口減少による税収減を補うために」

司会 市町村連携の具体的な事例はありますか。

葉山 この4年間で、消防救急の広域化が進みました。次いで、資源循環ごみ処理場が三浦市との連携が進められています。

濱谷 三浦半島地域活性化協議会主催の「三浦半島地域活性化シンポジウム」が2018年11月26日(月)に開催され、その内容が新聞に掲載をされていましたが、葉山議員の主張されている事は、同協議会とも連携できる事であると感じています。

「政治家は創造の源」

司会 最後になりますが、葉山議員が目指す政治家像をお聞かせ下さい。

葉山 市民目線で物事を判断し、市民の為に役立つ政治を目指します。また、半島全体の活性化を図る取り組みをして参りたいと思います。

司会 本日は、長時間に渡りありがとうございました。葉山議員の今後の活躍に期待を致しまして終了させて頂きます。

葉山 濱谷先生、本日はお忙しい中ありがとうございました。

(全文はHPに掲載しました)